



～おうち時間におすすめの本を紹介します～

図書担当 西澤 優花

読書をすると、いいことがたくさんあります。読書で身に付く力(国語力や言葉の知識、読解力)はどの教科の基礎学力にも必要なものです。また、読書によって育まれた豊かな感性や情操、思いやりは子どもの発達に大きく影響してきます。

読書は、子供たちが言葉を学び、感性をみがき、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより充実させる力を身に付けていくうえで欠かせないものです。本校では、金曜日の朝読書の実施や密を避けながらの休み時間の本の貸し出しに加え、図書ボランティアや図書館支援員の方々と連携して、本への興味関心を高める工夫を行い、取り組んでおります。

家で過ごす時間が増えた今、読書習慣のきっかけづくりに最適です。家族や友達との体験を、本と結び付けるのもおすすめです。梅雨の時期ですので、『雨に関係するおすすめの本』や『ぜひ読んでいただきたい本』を紹介させていただきます。親子で気になる一冊を選んでみてはいかがでしょうか。

【低学年】

「わたしのかさは そらのいろ」 あまん きみこ作 [福音館書店]  
 「きいろい ばけつ」 もりやま みやこ作 [あかね書房]  
 「だいくとおにろく」 松井 直 再話 [福音館書店]

【中学年】

「ふしぎなあの子」 佐藤 さとる作 [あかね書房]  
 「エルマーのぼうけん」 ルース・スタイルスガネット作 [福音館書店]  
 「日本の川 あらかわ・すみだがわ」 村松 昭作 [偕成社]

【高学年】

「水はどこからくるのか？」 高堂 彰二 監修 [PHP研究所]  
 「地球へのピクニック」 谷川 俊太郎 詩 [銀の鈴社]  
 「夏ものがたり」 野上 暁 編 [偕成社]



～2年生 水泳のめあて～

一組

ぼくは、クロールでできるだけながいきよりをおよげようになりたいです。なぜなら、およぎ方はならったけど、すこしわすれているところもあるからです。そのため、先生の話をしつかり聞いてれんしゅうします。

わたしは、四きゆうまで、ぜんぶごうかくできるよながんばりたいです。なぜなら、ぜんぶおよげたらかっこいいと思うからです。れんしゅうをたくさんして、ぜんぶできるよながんばります。

ぼくは、二十メートルおよげようになんばりたいです。いまは、けのびがぜんぜんできていないので、けのびができるよながんばりたいたいです。プールけんていにごうかくしたいです。

ぼくは、先生の話聞いてプールでおよぎたいです。ゆーは、あんぜんにおよぐことは大せつだからです。そのために、先生の話をしつかり聞きます。

わたしは、八きゆうを目ひようにします。なぜなら、まだおよぎ方にしんがなからです。そのため、れんしゅうをします。もし八きゆうにうかつたら、七きゆうもチャレンジしたいです。

わたしは、先生のおよぎ方を見て、すぐにできるよになりたいたいです。そのために、先生の言ったことやアドバイスをしつかり聞き、あんぜんをかくにんしながらとりにくみます。

二組

わたしは、二十五メートルおよげようになりたいたいです。りゆうは、ばた足してもぜんぜんすすまないのので、学校のプールでたくさんれんしゅうをして、すすめるよになりたいたいです。

わたしは、だるまうきができるようにしたいです。なぜなら、それにチャレンジできればむずかしいものにもチャレンジできると思ったから、がんばりたいです。

わたしはかおを水につけることや、だるまうきをがんばりたいです。わたしは、水がきらいで、水にかおをつけることができないので、できるようにしたいです。

ぼくは、ばた足で十メートルおよげようになりたいたいです。なぜかという、ぼくはちゃんとおよいだことがないからです。だから、およげようになんばりたいたいです。しゅうして、七きゆうを目ざしたいです。

わたしは、ビートぼんをつかわずに十五メートルおよげようになりたいたいです。一年生のとき、学校のプールに入れなくて、水えいのならいごともしないの、十五メートルおよげようになつてクロールもしてみたいです。

ぼくは、ビートぼんをつかわず、十五メートルおよげたいです。ほいくえんのころは、あまりおよげなかったの、ビートぼんなしでがんばりたいです。